

【主な個別施策の成果と関連事業の政策評価結果】

部局名	企画財政部	
個別施策	G2-1 学習に取り組める場と機会の充実を図ります	
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図
	市民が	身近な生涯学習施設で集い、交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題等を学んでいる。

令和3年度の取組概要

- 若者がチャレンジできる仕組みづくり
 - ・15～34歳の若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場として令和2年度に立ち上げた「ながさき若者会議(以下、「若者会議」という。)」の運営を継続するとともに、持続的に運営できる体制等について、参加者とともに検討を進めた。
 - ・「若者会議」の参加者全員に案内を行う全体会議の月1回程度の開催やSNS等を活用した参加者間の日常的なコミュニケーションなどにより、活動のブラッシュアップや新たな企画の創出を図った。
 - ・令和3年11月に開催された「長崎開港フェスタ450」において、若者が考える未来を表現する「未来のエリア」をながさき若者会議が運営した。
 - ・「若者会議」の参加者の取組みにより、若者の活動等に関する情報を発信するホームページが構築された。

評価(成果)

- 若者がチャレンジできる仕組みづくり
 - ・「若者会議」については、進学・就職などに伴う参加者の減も生じたが、年度途中から参加者の追加募集を行ったことなどにより、令和4年4月時点において約30人が在籍しており、この中から、持続的に運営できる体制を検討するコアメンバーグループが結成された。
 - ・「若者会議」の参加者が実現したいアイデアや企画をもとに生まれた9つのチームにおいて、全体会議などにおいて具体的な活動内容等に関する協議・検討を重ねた結果、地域社会に貢献する様々な活動が実行された。
 - ・「長崎開港フェスタ450」において、体験スタンプラリーをはじめとした様々なイベントを実施した。体験スタンプラリーについては、400人を超える方が参加するなど、多くの方にイベントを楽しまれるとともに、「若者会議」の幅広い周知にもつながった。
 - ・「若者会議」のホームページについては、参加者において随時更新が行われ、新たな情報が発信されたことで、若者の活動等の顕在化につながったとともに、新規参加者の応募受付数も増加した。
 - ・若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場が定着してきたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会が増えた。

評価(問題点とその要因)

- 若者がチャレンジできる仕組みづくり
 - ・「若者会議」の取組みをはじめ若者の活動を支援する体制が十分に整っていないため、事業を立ち上げて4年目となる令和5年度を目途に「若者会議」がそのコアメンバーグループによる自立的で持続的な運営体制を整えられるような状況には至っていない。

今後の取組方針

- 若者がチャレンジできる仕組みづくり
 - ・「若者会議」の持続可能な運営の実現に向け、「若者会議」と長崎市との関わり方を整理するとともに、民間等と連携した若者の支援体制の充実を図る。

【主な個別施策の成果と関連事業の政策評価結果】

関連する主な事業名

頁	事業名・目的・概要	事業実績、成果・課題等	
81	<p>(事業名) 「長崎×若者」推進費</p> <p>(事業目的) 若者から「選ばれるまち」を目指し、「若者が楽しむことができる場」、「若者がチャレンジできる場」をつくることで、「若者が楽しみ、活躍できるまち」とする。</p> <p>(事業概要) 若者の楽しみに関する調査・分析結果に基づき、若者が楽しむことができる場を創出するとともに、若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みを構築する。</p>	<p>成果指標</p> <p>ながさき若者会議で実施されている活動の数</p> <p>目標値</p> <p>実績値</p> <p>達成率</p> <p>決算額</p>	<p>ながさき若者会議で実施されている活動の数</p> <p>8 件</p> <p>9 件</p> <p>112.5 %</p> <p>1,829,115 円</p>
		<p>成果指標・目標値の説明</p>	<p>「ながさき若者会議で実施されている活動の数」は、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会につながるものと考えられるため成果指標とした。 また、令和3年度4月時点で8件の活動が実施されていたため、それらが継続されることを目標とした。</p>
		<p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の状況 約30人が参加(令和4年4月時点) 全体会議の状況 月1回程度開催 活動の数 9件(9チームが活動) 「長崎開港フェスタ450」におけるスタンプラリー企画への参加者数 400人超 ホームページのページビュー数 7,688PV(令和4年1月11日(HP開設)～3月31日) <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 15～34歳の若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場が定着してきたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会が増加したほか、イベントやホームページ等を通じて若者の活動に関する情報が発信されたことなどにより、若者の活動の顕在化が図られた。 事業を立ち上げて4年目となる令和5年度に向け、「ながさき若者会議」が持続的に運営できる体制を整え、チャレンジできる仕組みづくりを一定完了させるため、「ながさき若者会議」と長崎市との関わり方を整理するとともに、民間等と連携した若者の支援体制の充実を図る必要がある。